

総務常任委員会

(令和元年 7 月 29 日)

○ 萩須智之委員長

それでは、総務常任委員会を開会いたします。

本日は、休会中の所管事務調査として、6月定例会議会での課題設定に基づき、まず、シティプロモーションの現状と今後のあり方についてを取り扱います。それに先立ちまして、先日、7月10日に行われました議会報告会、シティ・ミーティングにおきまして、シティプロモーションについてをテーマに市民の方に意見をお聞きました。まずは、この意見の確認と整理から行っていきたいと思います。よろしく申し上げます。

議会報告会、シティ・ミーティングで出された意見につきまして、市民意見を、一つ目として、議会として協議すべき意見、二つ目が、各常任委員会で協議すべき意見、三つ目が、その他の意見に分けてございます。

先日の議会報告会、シティ・ミーティングで出された意見をまとめたものを資料としていただいておりますので、お手元のタブレットのファイルの01、議会報告会、シティ・ミーティングで出された意見（案）をごらんいただけますでしょうか。よろしいでしょうか。よろしいですか。

そうしたら、その説明を事務局、笠井さんから申し上げます。

○ 笠井議会事務局主事

事務局、笠井でございます。

説明のほうをさせていただきますが、フォルダーのほう、よろしかったでしょうか。もうファイルを開いていただいておりますでしょうか。大丈夫ですか。そうしましたら、説明のほうをさせていただきます。

先ほど委員長からご紹介のありました01、議会報告会、シティ・ミーティングで出された意見（案）というファイルのほうをお開きください。

今回、総務常任委員会の議会報告会のほうでは、特に意見のほうは出されませんでした。シティ・ミーティングにつきましては、シティプロモーションをテーマにグループ形式で討議をいただきました。それぞれのグループで出された意見につきまして、一定のテーマごとにまとめております。

まずAグループですけれども、出された意見につきましては、1番目に、四日市市への

愛着に関して、2番目——丸の二つ目ですが——四日市市のイメージ、魅力・アピールポイント等に関して、これが一番多い状況になっています。3番目に、四日市市に住むことに関して、そして最後に、シティプロモーションの意味合いに関してということでまとめております。

Bグループにつきましては、四日市大学の学生さんが多く参加をいただいております。こちら1番目に、四日市市への愛着に関して、2番目に、これも一番多くなっておりますが、四日市市のイメージ、魅力・アピールポイント等に関して、最後に、四日市市に住むことに関してということで意見をまとめております。

ちょっと特徴的なところといいますか、Aグループのほうに関しては、最後のところでシティプロモーションの意味合いに関してというところで意見が出されておるところです。

両グループで出されました意見の整理につきましては、シティプロモーションに関して常任委員会の調査テーマとしていることから、各常任委員会で協議すべき意見として分類しております。なお、Aグループにおいて、環境部と都市整備部にかかわる意見が出されていることから、都市・環境常任委員会に意見を伝えるものと整理しております。

説明、ざっくりですが、以上になります。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

正副としましては、この内容についてまずお目通しいただきまして、ご意見を賜りたいと思うんですが。ちょっと時間とりますか。しばし精読いただきまして。

(精読)

#### ○ 萩須智之委員長

よろしいでしょうか。

実際に、こういう意見が出たけど抜けているとか、そういうのがなければよろしいかと思うんですが。問題点がなければ、議会運営委員会にこの状態で報告させていただこうと思います。不足等よろしいでしょうか。

(異議なし)

## ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。それでは、この内容にて議会運営委員会へ報告させていただきます。これでよろしく申し上げます。

続きまして、所管事務調査の2、シティプロモーションの現状と今後のあり方について、進めさせていただきます。

先日、中長期のテーマとして、人口問題とシティプロモーションという提案をいただいております。これに基づき、まず、本日の調査については、本市のシティプロモーションの現状、課題等について取り扱ってまいりたいと思います。

本市では、平成30年度に新たにシティプロモーション部が立ち上げられ、市の魅力の発信に取り組んでいるところであります。先ほどもありましたように、先日のシティ・ミーティングで、シティプロモーションについて市民の方にもご意見をお伺いしたところでありますが、本日は、このシティプロモーションが行われる背景、目的、本市としては、今後どのような段階にあり、何が行われているのか等について、基礎的な調査、議論を行っていきたいと思います。

理事者は、シティプロモーション部に出席していただいております。

まず、部長よりご挨拶をいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

## ○ 渡辺シティプロモーション部長

改めまして、こんにちは。

シティプロモーション部でございます。

ただいま委員長からご案内をいただきましたように、当総務常任委員会の所管事務調査にシティプロモーションということで項目を挙げていただきました。私どもといたしましては、非常にありがたいことであるというふうに、本当にそうやって思っています。ご案内のように、昨年4月から立ち上がったわけですが、いろんなご意見を頂戴しております。議会からもご意見を頂戴しておりますし、いろんなところからもいただいております。私どもは私どもの考えに基づいていろいろ事業をやらせていただいております。今回、こういう機会をいただきましたので、いろんなご意見をいただきながら、今後の推進に努めていきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

## ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

それでは、本日の配付資料の説明をお願いします。同じくタブレットで総務常任委員会の02、シティプロモーション部資料のほうをお開きください。

では、お願いします。

## ○ 小松観光交流課長

観光交流課長の小松でございます。

では、資料の説明のほうをさせていただきたいと思います。

今委員長からご説明のありました資料のほうですが、皆様方、お手元のタブレット、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、資料のまず2ページをごらんさせていただきたいと思います。

今回、ご用意のほうをさせていただきました資料の項目といたしまして、四日市市観光・シティプロモーション条例、シティプロモーション方策報告書（概要版）、入込客数の推移（暦年）とございます。

私のほうからは、一つ目の観光・シティプロモーション条例と三つ目の入込客数の推移についてのご説明をさせていただきたいと思います。

では、次ページの3ページをお願いいたします。

こちらは平成28年4月1日に制定されました四日市市観光・シティプロモーション条例の前文となっております。いま一度、振り返りにはなりますが、内容につきましてはいつまで簡単にご説明のほうをさせていただきます。

まず冒頭、前文には、条例制定に至ります経緯などについての記載がしてございます。本市は、山や海といった豊かな自然に恵まれており、歴史的にも交通の要衝として、そして市が開かれたまちとして、そして東海道の43番目の宿場町として栄えてきた経緯がございまして、また、近代産業の発展により、世界に広がる港町として推移をしてきました。

一方で、石油化学コンビナートが形成された過程において発生いたしました公害に関しては、その後、市民、企業、行政が連携し、環境改善に取り組むことによって産業の発展と環境の改善を両立したまちづくりを行ってまいりました。

今後、このような本市の歩みや本市のさまざまな魅力を知っていただくためには、多く

の方々に本市のほうに「来て・観て・感じて」いただくことがとても重要となります。そのためには、市民が誇れる地域資源を最大限に生かして新たな魅力を創造し、磨き上げ、発信していく必要があることから、市民、事業者、行政が一体となって市の魅力を発信できるように、観光推進及びシティプロモーションを通じた本市の魅力の創造と発信に努め、都市の持続的な発展に資することを目的に、この条例が制定されておるところとなっております。

条例中の第1条につきましては、条例の核となります目的の記載がしております。先ほど前文の内容と重複する部分もございますが、こちらのほうでは、本市の都市イメージの向上及び市民が地域を誇らしく思う心の醸成を図るとともに、その魅力の創造と発信によって市外からの交流人口や定住人口の増加を促進し、もって産業と環境、産業と文化が調和した都市として、持続的な発展に資することを目的として掲げております。

次に、4ページをお開きくださいませ。

第3条のほうでは、地域の魅力の創造及び発信に係ります六つの基本理念をうたっております。

一つずつ見ていきますと、1番目が、地域資源に対する市民等の理解と関心を深め、地域における創意工夫を生かした自主的かつ主体的な取り組みを尊重すること。二つ目は、地域に誇りと愛着を持ち、あたたかなもてなしを実践することが重要であるという認識のもとに推進すること。三つ目が、将来にわたる持続的な取り組みを実現するためには、良好な自然環境、景観及び歴史的または文化的資産の保全、再生及び活用を図ることが重要であるという認識のもとに推進すること。四つ目が、市及び市民等の相互の連携を確保するとともに、国、県及び他の地方公共団体との広域的な連携を推進すること。五つ目が、本市が公害を経験し、産業振興と環境保全を両立してきた都市であるという基盤を生かし、国内外の環境改善の取り組みに貢献するという認識のもとに推進すること。最後、六つ目が、本市の今までの歩みを大切にし、本市の豊かな地域資源及び地域の魅力を国内外に向け効果的に発信するという認識のもとに推進することとしてございます。

次に、第4条から第7条につきましては、市の責務や市民、事業者、団体それぞれの役割についての記載がしております。

続きまして、第9条から第15条につきましては、情報の発信や来訪の促進、市民の誇りともてなしの心の醸成など、今後努めるべき取り組みについての記載がしております。

次に、ページ飛びまして申しわけございませんが、14ページをお開きいただきたいと思

います。

変わりました、入込客数の推移の一覧表となっております。

こちらは、毎年、県の観光局から報告を求められている数字となっております、市内のレクリエーション施設やイベントなどについて、利用者の数や来場者の数などを取りまとめたものとなっております。

私ども観光交流課におきましても、こちらの表の項目で、市内全ての集客施設やイベントが網羅こそされてはおりませんが、来場者の状況であるとか、その把握により数値化された指標として活用のほうをいたしておるところとなっております。

若干こちらの表の説明をさせていただきますと、縦軸の①から⑤につきましては、欄外下部の注釈にもございますとおり、入場券売り上げ枚数、あるいは施設管理者による実際のカウントなどによって入込客数を算出しておりますもので、したがって、例えば伊坂ダムサイクルパーク、こちらのほうは、変わり種自転車とか、そういった有料施設の利用者の数を把握して、平成30年は6万2430人となっておりますが、その他の利用で、ウォーキングやジョギングなどで訪れる方については、こちらのほうのカウントには反映されていないという状況となっております。

⑥から⑧につきましては、主に大四日市まつり、四日市花火大会、萬古まつりというようなところで、イベントとなっておりますが、こちらにつきましては、主催者発表の数字をそのまま記載のほうをしております。

⑨、⑩につきましては、こちらは三重県のルールといたしまして、年間1万人以上の数を持つ施設等についての報告というルールになっておりますが、私ども宮妻峡ヒュッテと楠歴史民俗資料館につきましては、一つの観光資源という捉え方をいたしておりますもので、県の報告の数字外で内々で累計をしておる数字といたしまして、⑨、⑩については反映のほうをさせていただいておるところとなっております。

経緯的なそれぞれの数字のほうですが、一番下の合計数のほうが年々上がってきておるような状況ではございます。例えば1番目の四日市港につきましては、平成30年から大型の外国客船等の寄港が盛んに行われるようになりまして、平成30年は9万1769名ということで、こちらは寄港時の乗船客あるいは見学者を含めた数として報告のほうをさせていただいておるところとなっております。

また、各施設につきましては、徐々に、年を追うごとにふえてきておる状況もございますが、例えば2番目の四日市スポーツランドにつきましては、昨年の夏の猛暑というよう

なところもありまして、夏場の利用者がぐっと減っておったというようなところもございまして、これまで上昇基調でございましたけれども、平成30年については若干減ったというような状況がございます。

私の説明につきましては、以上でございます。

## ○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

広報マーケティング課長、森でございます。どうぞよろしく申し上げます。

私のほうからは、申しわけございません、少しページを戻っていただきまして、6ページ、7ページと続いてまいりますシティプロモーション方策報告書についてご説明を申し上げたいと存じます。

では、6ページのほうは表紙になってございますので、実質見ていただくのは7ページからでございますが、まず、この方策報告書を資料として出させていただきましたのは、平成30年の8月定例会議会におきまして、総務常任委員会関係資料、決算常任委員会総務分科会資料、政策推進部マーケティング調査事業についてということで最初に出させていただいております。といいますのは、本報告書は、平成29年度に政策推進部政策推進課のほうで行われました調査をもとにつくられたものでございます。そのことのために出させていただきました。

そして、2回目には、本年2月定例会議会、産業生活常任委員会関係資料、予算常任委員会産業生活分科会追加資料としてお出しをさせていただいております。ですので、総務常任委員会のときに1回、それから昨年度末、産業生活常任委員会のときに1回として出させていただきましたものを、再度、お出しをさせていただいております。

本調査は、平成29年度にさせていただきました三つの都市イメージ調査、これをもとにまとめさせていただいたものとなっております。

一つ目の調査は、四日市以南の市町や名古屋都市圏の県、それから首都圏——東京都区部を含みます——そういったところの1000人を対象にさせていただいたイメージ調査、20代から60代の方に対して9月29日から10月2日まで4日間のネットアンケート、全12問をさせていただいております。二つ目は、四日市市在住の20代から60代、200人に対して、平成29年度に同じく9月27日から10月2日までネットアンケートで6日間、全10問させていただいております。三つ目は、四日市市在住の20代、30代の女性に郵送でさせていただいております。10月25日から11月10日まで、全14問をさせていただいております。そ



れをもとにさせていただいて出てきましたものが、この報告書でございます。

まず、7ページの上段でございますが、その、三つの都市イメージに関する調査の結果、見えてまいりましたのは、多少ちょっと残念ではございますが、四日市の市民は、四日市市に対して大変愛着こそあるんですが、誇りは持っていないというような心の持ちようであるという評価が出てまいりました。それが上段に書いてありますグラフでございます。

また、その外的な環境といたしましては、経済的には非常に向上してきているものの、全国的な傾向といたしまして、同じように人口が減少傾向にあるという状況が出てまいっております。

そして、こうした状況を見ながら要因を分析していったところ、四日市市の状況としまして、居住地としてのブランド力が低い、特に四日市市民は、四日市市が最も住みやすいとは思っていないのではないかという形が出てまいりました。特にその中でも、20代、30代の女性が四日市が一番いいよとした割合が最も少なく、四日市市の若い女性が四日市を誇りに思っていないということが浮き彫りになってきました。

その下にもそれと同様に、若い女性にはなかなか支持を得られていない、四日市のイメージが余りよく思われていないということが見えてまいっております。

また、名古屋市で働く人の居住都市としてのイメージ、これも余り持たれていないようだ、四日市市が暮らしやすいまちとしては、名古屋都市圏の中では認知が低いということが見えてまいっております。

8ページをお願いいたします。

この調査を通しまして、では、市内外からどのように認識されておるかというところで我々が考え出しましたのが、歴史や伝統、もう四日市市はそういったまちであるということですが、そうした資源が市のイメージを形づくってはいるものの、市内の若い女性にとってもものづくりのイメージとしてはいいんだけど、どうやらそれが誇りとまではつながっていない。自分らしく家族で暮らすということについてはいいんだけど、何だかやっぱり外に向けては、自信を持って四日市は素晴らしいですよというのを、なかなか若い女性が言っていないということが出てまいっております。

そこで、そういったものを踏まえまして、我々イメージアップを図らなければいけないということで、都市イメージを向上させていくということに今後ずっと取り組んでいくということで、平成30年度からやっております。

その中で、若い女性、若い家族、そういったところを、狙いを一つに定めまして、そう

いった方々にご理解いただくようなまちにしていかなければいけないということで取り組んでおり、それを9ページに基本方針として出させていただきます。

続きまして、10ページは、イメージアップを図る対象、コア・ターゲットといたしまして、では、どういう人かというところで、4点出させていただきますが、やはりそこには当然、四日市にお住まいになっている方にまず四日市の魅力に気づいていただく。それから、これからどこへ住まうか居住地を定める場合の、まだ定めていない方にぜひ四日市を選んでいただけるようにする。それから、若い女性、40歳までの女性に四日市を選択するようにしていただく。そして、最後に、名古屋で働いているような方も呼び込めるようにしていくということが、私たちの方針の一つになってまいります。

続きまして、11ページ、形成を進める都市ブランドというところでございますが、それでは、我々の四日市の都市イメージ、これをどう高めていくかというところで、今私どもは、四日市をどういう共通イメージで皆様と共有していった、それを市外のほうへお伝えをしていくかというところをこれから考えていこうとしてございます。それがキャッチフレーズであったりというような、または映像化したものであったりとして外へ打っていきたいというふうに考えてございます。

具体的な方策の案といたしましては、12ページに示されております。

我々の持っている都市イメージの可視化を行って、次に、そのイメージを、そのイメージどおりのよさを実感する機会をつくる、それからそのイメージを全方向に伝達してもらような仕組みをつくっていく、そしてそういうのをうまくセールスしていくようなやり方を考えていくということを考えております。

それを図示化したものが13ページでございます。

私どもはこういった流れの中で、平成30年度から今後、平成31年度にかけまして、さまざまなシティプロモーションの施策を展開してまいっているというのが現状でございます。

私からは以上です。

## ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

それでは、質疑に入ります。ご意見、ご質疑のある方は、挙手にて発言を願います。また、質疑が終わった後に、議員間討議の時間を設けたいと思いますので、よろしく願います。

いかがでしょうか。

○ 樋口博己委員

これ、この3月にシティプロモーション方策報告書が出されて、暮れの総務常任委員会でも説明があつて、これを受けて、20代、30代、40代まで、40代までの女性のイメージがあんまりよくなくて、支持されていないということなんですけど、これで今年度、具体的な事業というのは何か。どんなものがあるんですかね、今進んでいる事業としては。

○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

広報マーケティング課、森でございます。

女性を非常に重視してはおるんですが、ことしに限りまして、まだ女性にだけ特化したというのは行っておりません。今、これからなんですけど、名古屋駅構内のほうで、四日市のイメージ映像を流していったりとかをしていくふうにはしておりますが、それはまだ一般的なものでございますので、女性に特化したものというのは今はまだやってございません。

○ 樋口博己委員

そうすると、それは女性に特化しなくても、この報告書をもとに具体的な事業というと、どんなものがあるんですかね。

○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

広報マーケティング課、森でございます。

昨年度から取り組んでおりますことの継続というのもございますが、四日市ナンバーを導入させていただいて、今年度、ちょっと国のほうからそれを導入するという最終的なものはまだ出ていないんですが、そういったものをどんどん着々と進めているということが一つ。

それから、ふるさと納税のPRを私ども、昨年度から取り組ませていただいております。ふるさと納税でのPRもやっております。

それから、先ほど申し上げました名古屋駅構内の映像化というのにも取り組ませていただいておりますし、それから、首都圏のシティプロモーションということで、昨年は四日

市にゆかりのある企業ということで、川崎市の味の素の工場のほうへ私どもの産品を持っていきまして、それから映像とかも持っていかせていただいて、ゆかりのある企業の従業員さんたちに、四日市はどうですということを知っていただく機会を設けたりというようなことをやってございます。今年度も、当然、それは継続してやってまいります。

#### ○ 樋口博己委員

今答弁いただいたものは、四日市ナンバーは前からやっていますけど、具体的な対策というか、事業というのは次年度以降という感じですかね。継続的にやっているような感じはするんですけど、この報告書をもとに、導かれた結果をもとに具体的にこういう対策をするんだという感じでもなさそうなんですけどね、今の答弁だと。

#### ○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

森でございます。

来年度にかけまして、この中のものを具現化していきたいという思いを持ってございます。今、総合計画のほうを各部局、取り組んでございますので、何とかその中ににじませまして、推進計画のような形で持っていったらなということで取り組んでございます。

#### ○ 樋口博己委員

わかりました。しっかりと今総合計画、特別委員会で議論していますので、議論していきたいなと思います。

あと、ちょっとこれとかかわりは、直接ではないんですけども、さっきのシティ・マーケティングの意見の中で、四日市にどうしてもやっぱり公害というイメージを、よそから来る人は第一印象を持ってみえてやってきて、そうでもないかなという話にはなっておるんですけど、以前、田中市長のときに、教科書の記述を変えてくださいという要望をしたんだという話だったんですけども、あれは今現実には変わっているんですかね。

また、今すぐにじゃなくてもいいんですが、後ほど、以前はこういう記述だったけれども、今はこういう記述になっているよということであれば、また資料でお出しただきたいんですけども。

#### ○ 水谷シティプロモーション部政策推進監兼広報マーケティング課課長補佐

政策推進監、水谷でございます。

教科書の記述につきましては、教科書の販売の会社によっても多少違うんですけれども、改善のところまでの記載が、もう既に新しいものと記載がされているようになっているように伺っております。ちょっと正確にどのような記載になっているかというところまでのお答えがちょっとできないんですが、改善の取り組みまで進んでいるというところまで記載はされております。

○ 樋口博己委員

それは、全各社そういうふうに変更の傾向になるというものなのか、そういうのも含めてちょっと後ほど資料で出していただけますでしょうか。

○ 萩須智之委員長

資料請求ということでよろしいでしょうか。じゃ、お願いします。

○ 樋口博己委員

以上です。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○ 豊田政典委員

資料ありがとうございます。

まだ全体的に、森課長説明いただいた部分、頭を整理できていないんですけど、整理できないまましゃべりますし、それから、総合計画の特別委員会でしゃべっていることもあって、あんまり同じこと言いたくないなと思いながら、自分の中、ごっちゃになっていますがお許しいただくとして。

小松課長が説明していただいた14分の3ページから聞いていきますので。この条例ができて、目的のところ、四つばかり書いてあると。第1条、都市イメージの向上、それから四日市市民が地域を誇らしく思う心の醸成、そして魅力の創造と発信、この三つをやる

ことによって、まずはか、最後かわかりませんが、交流人口、定住人口を増加させる、そんな流れですよ。

森課長の言われたやつ、わからんままですけど、結局ターゲットは、コア・ターゲットとしては、女性で、40代で、名古屋に通っている。何ページでしたっけ、14分の10ページか。このコア・ターゲットが四つ書いてあるけど、それぞれの重なる部分、この下の図でいうところの左と右の赤丸、ここをターゲットに主に事業を展開する、そんな考えですよ、多分。そこ、イエスかノーかだけ教えてください。

#### ○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

森でございます。

確かにそこが一番大きいとは考えておりますんですが、そこに全部集約するというのではなく、そこを中心に考えていくという方向で今取り組んでおります。

#### ○ 豊田政典委員

コアなので、ここが中心的な対象であると、それ以外ももちろんやるんだと。

10ページにそれが書いてあって、その後の、いろいろ書いてもらっているやつは、コア・ターゲットに向けて書いてあるのかなと思って読んだりするんですけど。

小松課長でもどちらでもいいんですが、確認したいのは0、14分の3ページで今、目的が四つありますと言いました。都市イメージの向上ということで何をやっていこうとしているのか。それから、市民が地域を誇らしく思う心の醸成を図る、ここで、どんなことをしようとしているのか。三つ目、それぞれそうなんですけど——三つだけやな——魅力の創造と発信、これはどうやってやるという展開になっているのか、計画になっているのか、予算になっているのか、簡単に教えてほしいんですけども。

#### ○ 小松観光交流課長

観光交流課の小松でございます。

今お話のほうをいただきました3点のうち、順不同で申しわけございませんが、市民が地域を誇らしく思う心の醸成を図るという部分について、まずお答えのほうをさせていただきたいと思います。

先ほど森のほうからもアンケート結果ということで、なかなか誇りに思えないというよ

うな結果が出ておるといふところがアンケート結果でございました。それで、シビックプライドの醸成ということで私どもも考えておるところでは、やはり、例えばボランティアというところを昨年の私どもの手がける大日市まつり、大日市花火大会等のイベントで一般ボランティア、あるいは高校の校長会を通じて高校の生徒さんにお越しをいただき、そして一緒に取り組みをする中で、そういった機運の醸成、気持ちの醸成というところを少しでも取り組みとして行うことができればということの手がけ出したところとなっております。

ただ、一過性のイベントで、ただ単に一緒になって汗をかいたというだけでは、なかなかシビックプライドの醸成というところまでには至らないということも理解しておるところでございますもので、そういった取り組みを一緒にするというのはあくまでも一例ですけれども、自分たちがこのイベントに携わっている、市のために自分たちが市を変えようとしておる、そういった気持ちを持って一緒になって取り組んでいただけるような状況が起こって初めて、シビックプライドの醸成がされたというふうに考えられるかなというふうに思っておりますもので、そういった取り組みを通じる中で、いかにかわりを持って市民の皆さん、あるいは企業の皆さん、一緒になってやっていただけるかということが肝になるかなというふうに考えております。

○ 萩須智之委員長

ちょっとシビックプライドというのは余り聞きなれない言葉なんですけど、どういうふう  
に捉えればいかご説明いただけませんかでしょうか。

○ 小松観光交流課長

横文字で申しわけございません。

端的に申しますと、都市、大日市市に対する市民の誇り、大日市愛というような、平たい言葉でいいますと、そのようなふう  
に認識をしております。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。済みません、言葉を挟みまして。

○ 豊田政典委員

それは三つのうちの一つ、答えていただきましたが、あとの二つは。

## ○ 渡辺シティプロモーション部長

今豊田委員からは、条例の目的の具体的な施策との連動性といいますか、そういったご趣旨の質問をいただきました。

まず、都市イメージの向上ということですが、今現在、きちんとできているかと言われると、十分ではないと思っています。私が考える都市イメージの向上というのは、みんなが一つの、市民が四日市はこんなんだというので声をそろえて、ほかの市外に向けて声が発せられるようなものというものが私は必要ではないかと思っています。ですから、それがキャッチフレーズといいますか、そういうふうなものになってこようかと思うんですけども、そういう、皆さんが共有できるようなものを通じて都市イメージの向上を図っていくということがまず考えられると思います。

二つ目の、今のシビックプライドのお話ですけれども、市民の方に四日市を誇って、誇ってと、こういうお話をさせていただいてもなかなか現実、人の心の中というのは厳しいと思っています。私が思うのは、市外に対してこのシティプロモーションというのは、いろんな事業というのか、情報発信をしていくという部分は大きな部分がございます。市外に発信していった内容が、それがまた市内に戻ってくる。要するに市外の方の言葉なり、いろんな方法で、四日市は最近こんななのかというのが戻ってくることによって、市民の方のそういう意識といいますか、そういうのが動くのではないかと、そういう好循環をつくっていくということが、この2番目のシビックプライドの醸成を図っていくことにつながっていくというふうに思っておりますので、市外へのシティプロモーションというのを積極的に取り組んでいくということで考えております。

三つ目の創造と発信ということでございますが、これは私のほうで申し上げますと、例えばラジオの放送でありますとか、いろんな情報の発信というのを行っております。それは先ほどの市民のプライドといいますか、心の醸成というところとも相通ずるところはあるんですけども、そういったもので情報発信、いわゆるSNSとか、そういったものの発信というのは当然ございますが、それだけではなくていろんな媒体、メディアミックスというものを考えながら発信をしていくというものがこの三つ目になるというふうに考えておりますので、それは全て行っているというわけではございませんが、ラジオ等で行っているという現状でございます。



## ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

## ○ 豊田政典委員

少なくともこの時間で部長のところの事業や予算を批判するつもりは全くないです。どんな意識で、どんな事業を展開しているのかなというのを確認しているんですけども、最初の都市イメージの向上というのは、手法は別にしても、市外からのイメージですよ。都市イメージ。それが向上することによって交流人口、定住人口がふえるのではないかとというのが、漠然とイメージできます。

それから森課長は、恐らく何度か聞いていますけど、市民が、二つ目の市民の本市を誇らしく思う心の醸成、市民の四日市に住んでいいなという心が醸成されることによって、それが周りに広がって人口増につながるんじゃないか。ちょっと後でもう一回、少ししゃべってほしいんですけども、そのイメージね。わからんでもない。

それで創造と発信、何かというと、感想めいた話なんですけど、さっき部長が言われるように、都市イメージの向上は必要だ、共通したキャッチフレーズなり、何らかの武器が必要だけどというところまではそのとおり。武器は何だというと、ないわけですよ、僕に言わせれば。ごめんなさい。

皆さんが部でやっているのは、悪く極端に言えば、三つ目の創造と発信の発信ばかりやっていて、一生懸命やっておられていて、悪いことじゃないですよ。それは数少ないアイテムを売ろうとしているように見えて仕方がない。無理やり売っている。売り物が無いのに無理やり売っている。感想は言いませんが。

総合計画の特別委員会で僕が言ったのは、総合計画の10年計画に書いてある、ここにこそ売り物があるんじゃないかと期待して、各部局を見ていますけど、大した売り物はそろっていない、品ぞろえが悪いなんていう話をしているんですけども。

それはさておき、当面、観光・シティプロモーション条例の目指すところは、第1段階の目的は交流人口、定住人口の増加って書いてあるんで、それでいいんでしょうね。これ、何のためにやるんだって、またこの委員会でやりたいんですけど、人口をふやす必要はあるのってなってくるからね。それはまた後回しにしておいて。

森課長の考えをもう少し。市民の心は大事だよと、生活者としての、ということの前聞

いたことがあるんですけども、もうちょっとそれを教えてください。

#### ○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

広報マーケティング課、森でございます。

今委員におっしゃっていただいたように、私もよく思いますのは、四日市の方というのは大変奥ゆかしい方が多い。やっぱり以前に公害というのも経験しているというところもありますし、生活する上で、特に不便もないけれども、特に何かがいいというわけでもない、でも暮らしやすいというところにいらっしゃって。ただ、以前そういう公害があって、名前は知れわたっているというようなところから、大変奥ゆかしいというか、引きがちなお心持ちでおられると。

ただ、外へ一歩出て行って市を眺めますと、本当はすごくいいまちで、このまちは、歴史もある、それから多彩な産業もある、それから非常に利便性に富んでいる、そういうことをもっと四日市の人が、自分自身の暮らしをもう一度認識し直していただければ、とてもこのまちのすばらしさというのに気づいていただけるのではないかなと。

そうであれば、そんな一歩引いたでなくて、ご自分からもう少し積極的に外に対しても、このまちはいいまちなんですよという申し上げというか、言いようが出てくるんじゃないかなと、私はそのようには感じております。委員がご指摘になった私の考えが、それが正しいかどうかはわかりませんが、私はそのように今思っております。

以上でございます。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

#### ○ 豊田政典委員

あとは、勝手なことを言ったりするんですけど、都市イメージというのは、端的に人口増に関係があるだろうなというのはよくわかるので。だとすれば、本会議でも言ったことがあるんですけど、その把握ができていないんじゃないか、きちんと、というのがどうしても気になるんですよ。四日市市という都市に対する市外の人間のイメージがどんなものなのかというのを、それをもう少しやっぱり客観的に捉えて、分析したらいい。

それが一つ気になることと、それから、あとは、人口も所管事務調査の一つのテーマな

ので、やっぱり出ていった人、入ってくる人とかのイメージ、理由とか、それもいまだに把握されていない、そこが一番直接的で必要なんじゃないかなと思うし。

それから、市民の話をしていただきましたが、この前のシティ・ミーティングで僕、Aチームだったんですけど、主に下野地区の自治会関係者のおじいさんが多かったんですけども、このアンケートに似たようなところがあって、四日市や住んでいる地域に対する愛情は比較的高いなというのを感じましたが、だからといって四日市を勧めたいとか、人口をふやさなあかんとかね、そういう意識はないんですよ。人口ふやさなあかんぜ、俺たちはって。

だけど、条例では、市民の役割とかあるんですけど、森さんは醸成せいで言うけど、少なくとも今多くの市民は、俺たち人口をもっとふやすにはどうしたらいいんだなんていうのは考えていないんですよ。多分考えないんですよ、あんまり。考えるのは議会と皆さんと市長ぐらいなもので。これ、どういうことなのかなって整理つかんまましゃべっていますけど、市民にとっては人口って大事ななか、関係ないのか、都市イメージって大事なのかなとか思ったりね。森課長の言うことはよくわかるんですよ。住んでいる人間が嫌いではしょうがないもので。そんな感想めいたことを。

それから、最後の何ちゃら人数の数え方がいまだに気に入らないんですけど、これ、三重県は何のために調べているんですか。調べて何に使おうとしているの。それから、わかりやすいところと言えば、一番上の四日市港は、平成29年から客船のお客さんの数を数えたんでしょけど、それ以外は何を数えているんですか、これ。

だから、交流人口がもしも本当に大切だとすれば、数え方をもっと正確にしないと、⑥、⑦、⑧の数え方なんていうのはナンセンスだと思っている、意味がないと思うんで、こんなもの。宣伝材料に使うならいいですけど。そこら辺の最後のところだけちょっと教えていただけるとありがたい。

## ○ 小松観光交流課長

観光交流課の小松です。

今お話しをいただきました、まず入込客数の①の四日市港ですが、平成28年度までにつきましては、展望展示室のうみてらす14、こちらのほうのカウントのみでございましたけれども、その後、大型客船の寄港ということで、先ほどお話しもさせていただきましたとおり、乗船客と見学者というところも数字として入れさせていただいておるといようなと

ころでございます。

それと、大四日市まつり、四日市花火大会、萬古まつりにつきましては、下の注釈に書いてございますとおり、入込客数を推計した主催者発表の数字ということで、これも以前の委員会の場でもお話をいただきましたとおり、これが本当に正しい人数かどうかというところ、これが間違っておったら根底から覆される結果になるからというようなお話もいただいております。

そして、今年度につきましては、予算のほうもお認めをいただきまして、一度試行的に大四日市まつりと花火大会、こちらの二つの事業につきましては、携帯電話のドコモの回線の電波を活用しまして、実際にこの大四日市まつり、花火大会の2日間あるいは1日、時間帯ごとに人の出入りを、携帯電話の動きを察知させる手法がございますもので、こちらで一度、統計的に数の把握をしようというふうに考えております。

こちらを行うことによって、入込人員以外に何がわかるかというところなんですけれども、その方の個人情報を活用する仕組みになりますもので、その方が、例えば祭りにどこから来て、どういった行動をして、そしてどこへ帰っていったかというようなレベルまで把握できるというようなところでございますもので、一度、数の把握のみならず、その数の属性というか、そういったところも今年度しっかりとつかんでいきたいというふうに考えております。

以上です。

#### ○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

豊田委員、よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。

#### ○ 森川 慎委員

このシティプロモーション方策報告書は、これはどういうものと見たらいいんですか。目的はどういう。イメージアップのための方策なんですか。ちょっと読んでおつても、何を目的としているのかよくわからないんですけど。ご説明いただきたいと思いますが。

#### ○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

広報マーケティング課、森でございます。

この報告書は、平成29年度に政策推進部のほうで、これからのまちづくり、シティプロモーション等を通じて、ここに書いてございます移住とか、交流人口増、定住人口増、そういうのを見据えていくために、四日市の都市イメージはどう見られておるかというのをまず把握しなければいけないということでやらせていただいた調査でございます。

○ 森川 慎委員

都市イメージをどうやって上げていこうかというのが目的の調査ということでいいんですか。シティプロモーション方策って書いてあるんだけど。

○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

森でございます。

シティプロモーションの方策になっておりますが、一番最初は都市イメージをまず把握して、それを上げていく、そこからさまざまな方策を打っていく、どういうものが必要かというのを考える種でございます。

○ 森川 慎委員

ざくっとしかわかりませんが。先ほど来、答弁の中で、いろいろ気持ちの問題やとか、そういうお答えがいろいろあるんですけど、気持ちの問題なんですかね、いろんな都市イメージが上がっていかないというところは。そういうふうに認識されているということですか、今。

○ 荻須智之委員長

どなたが。

○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

広報マーケティング課、森でございます。

気持ちも大きいと考えておりますんですが、実際、皆さんがどう思っているかというのを把握しないことには、例えばよそ様に比べてうちはこっだけ働くところがいっぱいあってとか、土地がどっだけあってとか、地価がどのようにというのがあったとして

も、ちょっとそれをまとめ上げて、我々のようにソフトな分野で何を打っていくかというのは非常に難しいので、まず、私たちとしては、皆さんがどのように思っておられるかという意識の部分を把握したいと考えて、これをさせていただいたというところでございます。

#### ○ 森川 慎委員

これ、見る限りで、私は7ページの居住地としてのブランド力が低いというところが一番大事やと思っておって、四日市市民が誰も住みやすいと思っておらずってここで分析結果が出ておる中で、例えばイメージであるとか、気持ちの問題やというのはちょっと違うのかなと個人的には思っておるので、いつもシティプロモーション部さんには厳しいことを僕は言うんですけど。

こういう結果が出ておるのに、どうして宣伝なんかな。外に打っていく、出ていくのかなというのが個人的には一番大きな疑問に感じているところなんですけど。この辺の分析結果というのは生かされないんですかね。あくまでこれはイメージの問題やというような認識で、今後も進んでいくんでしょうか。

#### ○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

広報マーケティング課、森でございます。

私どもは、シティプロモーションという分野で取り組んでいきますので、宣伝っておっしゃっていただいたんですけども、やっぱり外へ向けてのイメージ、伝達になるかと思うんですが。

確かにこの調査で、四日市に住むデメリットがどんな点が四日市はまずいというか、デメリットだと思いますかというような調査もございますので、そういったところは各分野にわたるところが改善を働きかけていくというようなことは大事かなとは思っております。

#### ○ 森川 慎委員

シティプロモーション部というのは、広報なり宣伝をすることしかないんですかね。思うんですけど、シティプロモーションってやっぱり四日市が住みやすいとか、子育てしやすいであったり、教育するのがすごく充実しているとか、そういうのがあれば自然とそれがシティプロモーションにつながって、口コミで広がっていくんじゃないかなと思ってお

って。

こうやって、アンケートをわざわざお金かけてとってもらって、住みやすいと思っておる人が一番四日市市民が少ないんだというところまで踏み込んでもらっておるのに、この中で四日市がこういうところなんです、こんななんですって名古屋や東京で宣伝したって、それは住んでおる人が住みやすいと思っていないところを、それを気持ちの問題とか、イメージの問題で片づけてしまったんでは何も問題が解決せんのではないなって個人的には思います。

こういう市民の人が、住みづらいと感じている人がたくさんいる中で、市の発信をしてくれとか、市のために何かしてくれとか、いろんなボランティアに参加してくれとか、そうやって言うてしまう、そういう感覚というのは私は随分、何かもう根本のところ間違っているんじゃないかなって個人的には思いますけど、どうですか。全否定してしまうような言い方をしておるのやけど。

#### ○ 荻須智之委員長

厳しい。

#### ○ 森川 慎委員

やけど、私はそう思うんですよ。やっぱり住みやすくて、例えば子育てするならってばって言うてもらうのはええけど、実質見てみたら、子供の医療費だって何だって県の施策を飛び越えてやっているということはほぼないわけですよ。

そういう中で、何かお金かかって大変やなって思っている人がたくさんおるってこの結果からも出ているのに、そこで何で外の人に向かってそういうことを言えるって思われているのかがよくわからん。

(発言する者あり)

#### ○ 森川 慎委員

その辺が私はシティプロモーションってわかってやってもらっておるけど、何か問題を、何かもやもやと不明瞭にして、本当の問題解決から逃げていってしまっているような、そういう方向に間違っって進めていっているんじゃないかなというような認識を持っていま

すけど。何かご感想あれば聞きたいと思いますが。

○ 渡辺シティプロモーション部長

ありがとうございます。

今委員がご指摘の、四日市は暮らしやすいイメージがないよというご指摘の部分は、7ページが一番下のほうの表現のところということで理解してよろしいでしょうか。

○ 森川 慎委員

この資料自体ではここに出ていますけど、いろんな声は聞いていますよ、個人的には。

○ 渡辺シティプロモーション部長

そういうことですか。はい。ありがとうございます。

この資料の中では7ページの真ん中ほどに、課題が生じた要因の分析という表現がございまして、その右側に、暮らしやすそうと思う近隣のまちというふうな項目がございまして、これを見ますと、名古屋市が一番評価が高いといたしますか、あと、近隣の桑名市、鈴鹿市、やっぱり四日市がいいよと、こういったところの流れがございまして。

これはそれぞれの年代の方によってそれぞれ考えも違うかと思うんですが、例えば鈴鹿市、桑名市さん、それから名古屋市さん、これを選んだ方が四日市は嫌いだというふうに思っているかということ、そこもなかなか難しいところがあるのかなという気が。いや、暮らしにくいといたしますか、そこまで思っているのかということのはちょっと正直よくわからないところがございます。

一番のご指摘は、それぞれの部局で、それぞれ市民に対する施策というのが一番重要なこととございまして、その施策を市民のほうを見ながら進んでいくということが一番の行政サービスになると、委員のご指摘はそういうことであると私は思って聞いてございました。私はまさにそのとおりというふうに思ってございます。

各部局におきましても、私どもはシティプロモーション部ではございますが、各部局においてシティプロモーションといたしますか、そういう情報発信もしていただくという中で、それぞれの対象の方に四日市のよさもわかっていただくということが、これは、一番非常に重要なこととございまして、例えばそれを市民の方にやっていくというのは、実は市民に対する行政サービスというのは、基本的に四日市市の大きな役割でございまして、各



セクションではそれをやらせていただいておりますという認識でおります。

私どもは、どちらかというと、その四日市を出たところでの取り組みといいますか、そちらへの訴えかけといいますか、そちらに向かって私どもは進んでいって、四日市というイメージを上げていくという部分を私らが担わなくちゃいけないというふうに私は思っております。

ですから、ご指摘のそれぞれの子供のこと、教育のこと、環境のこと、いろいろ市民の方にはございますが、それは各部局が市民に対してどういうサービスをするというのかというのは、これは真剣に考えて、当然行政サービスを打っていくと。その中には、いわゆる情報発信といいますか、当然その対象の方がお見えになるわけですので、その方にきちんと伝えるということが当然必要になってきます。そういうこともしながら、よさをアピールするというのが、市民に対するシティプロモーションなのかわかりませんが、これは各部局が当然やっていくものと、ちょっとそういったすみ分けはさせていただいているというつもりではおります。

#### ○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

#### ○ 森川 慎委員

今のご答弁で、そうすると、シティプロモーション部は基本的に外へ出ていくんだと、別に四日市のまちの中の政策に口出しすることはないんだというお話なんですかね。そうやって割り切ってもらえたら、それはそれで私はあんまり否定するところもなくなってくるのかなとは思いますが。

でも、こうやってアンケートをとってもらって、分析結果が出ておって、本当のシティプロモーションって一体何なんかなって余計にわからんようになっていくし、ここでは39歳以下の女性を中心とか。言ってもしょうがないか。

何かシティプロモーション部って名前も変えたほうがええのと違うかなと思う、聞いておって。広報課とか。何か外へ向かって発信していく。皆さん大変、矢面に立たされて大変なことでもろうておると思っておるんですよ。何か先ほど豊田さんのほうからもあったけれども、あんまり誇るところもなく、住みにくいって言っている人がたくさんおる中で、お前ら、でも外へ行って宣伝してこいって言われて、やらされておるのかなと私は

思っていますので大変やとは思うんやけど、何かもうちょっと根本のところを、政策推進部と含めて議論するべきだなと私は改めて思いました。

終わります。

## ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

## ○ 樋口博己委員

アンケートのとり方というか、声の聞き方の一つの考え方として、僕は一番究極は、四日市生まれだけれども、よそへ行って戻ってきた人に聞くのが一番だと思うんですけど、それをその人にピンポイントで聞こうとすると、要するに戸籍の移動、住民票の移動をもとに個人情報をつっ込んで聞かなあかんという話になると思うので、それは聞けやんと思うんです。

ただ、僕は羽津出身でずっとおりますけど、中学校の同級生で、3分の1は羽津におるんですよ。3分の1は市内におるんです。県外というのは6分の1ぐらいなんですけど、結構結婚して旦那を連れてきたり、帰ってきておるんですよ。そういう人に聞くのが一番いいと思うんですけど、何で帰ってきたんですかって話をね。それはさっきのとおり聞けやんのですけど。

一つの聞き方としては、転入者に何か本年度から市内の3カ所で、お渡ししてってやっていますやんか。その方に、1年後ぐらいにお声をお聞かせ願えませんかとか、そんなことをあらかじめ、お願いしておいて。何も言わんとアンケートをしたら、何でなんやって話になると思うんですけど、1年後ぐらいにまたしばらく落ち着いたら、四日市の感想を聞かせてくださいというようなことをお願いするとかということも一つ大事かなと思います。

四日市に住んでおる人に何が魅力ですか聞いても、誰も答えやんのですよ。これと違って別がないよというのが普通の人で、これは全国どこへ行ったってみんな一緒だと思うんですよ。幾ら我々が、あそこはもう憧れですごくいいまちと書いていても、この前、僕、神戸に行きましたけど、神戸には憧れを持っておるんですけど、神戸はいいところですよって言っても、神戸で言いましたら、いやいや神戸も寂れてきて大変ですよって言うんですよ。それはもうどこでも一緒だと思うんです。

ある意味、だから、転入じゃないんですけど、四日市に遊びに来てもらったりとか、いろんなことで来てもらった人に、どう四日市をアピールするかって大事やと思うんですよ。そこでどうアピールするかは別として、アピールする中で、何らかの印象を持って帰ってもらおう。その人が帰ったところで、四日市ってこんなところやったわ、という話をする。それがめぐりめぐって四日市に話が戻ってくると、四日市ってこんないいところがあるんやねって言われると、そう言われて四日市市民が誇りを持つんですよね。だと思っただけです。そういう循環をしていくのが目的やと僕は思っておるんですけども。

じゃ、四日市に来てもらった人にどうアプローチするのという話だと思っただけですけど、そのアンケートのとり方とか、四日市に来てもらった人へのアプローチの仕方、PRの仕方、その辺はどうでしょう、どうですか。

#### ○ 渡辺シティプロモーション部長

ありがとうございます。

今ご指摘をいただきました生の声をつかむというお話でございますが、今現在は確かにしてございません。転出される方に、私どもはふるさと納税、ことしからやらせていただいているんですけど、転出されますと四日市から外れますので、ぜひ四日市の産品をということでカタログをお渡しするようなことはさせていただいておりますし、他部局でいきますと、都市整備部の空き家対策なんかですと、いわゆる固都税の納付書を送付する際に、空き家の場合はこういうふうな取り組みをお願いしますというPRをすることとか、そういった部分は一部させていただいているところではございますが、まちのイメージに対するアンケート的なものというのは、今現在、多分どこもやっていないと思います。

今のご指摘の点につきましては、特に窓口での対応というお話になろうかと思っておりますので、過度な負担にならない範囲で、どういう形が一番いいのかというのはちょっと私どものほうで検討させていただきたいというふうに思います。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

樋口委員、よろしいですか。どうぞ。

#### ○ 樋口博己委員

四日市に来てもらった人へのアピールはそういうことだという答弁ですかね。

四日市から転出された方も、転出されたその後どうなんだというお声も、できるのであればお聞きしたいなと思いますし、例えば四日市に来る目的として、仕事で来る方が一番多いと思うんですけれども、その方に何らかのアプローチができないかとか。仕事以外で来る方は何が一番多いんでしょうかね。そこで何かアプローチできないかとか、そんなお考えもないんでしょうかね。

○ 荻須智之委員長

その次に来る人たちということ、ご質問でいいですか。

もう一回お願いします。

○ 樋口博己委員

仕事とか観光とか、いろんな形で来てもらっていると思うんですけど、その人にどうアプローチするかを考えていかないかと思うんですけど、何か具体的にお考えはないんでしょうかね。

○ 渡辺シティプロモーション部長

人の流入、流出といいますか、そういった点で、それぞれの方、それぞれいろいろご事情があって移られるわけですので、やっぱりその理由を私どもで把握させていただくということになりますと、転出なり転入の手続の際に、何かご本人さんにそういうのを問いかけるといいますか、お話をさせていただく場面しかないのかなと。例えばある会社へ転入されて、その会社へ聞きに行くというふうなお話になりますと、四日市はたくさんございますので、ピンポイント的なお話になりますと、やっぱり窓口での対応、そこでどういう形でそういう意見といいますか、お話を伺えることができるのかという手法を窓口の担当職員の大きな負担にならない範囲で、どうやってやるといいのかということをご検討させていただきたいということでございます。

○ 樋口博己委員

じゃ、観光とか、仕事以外でみえる方はどうなんですか。

## ○ 渡辺シティプロモーション部長

観光といいますと、私ども今のご指摘の点については、住民票をこちらへ移されるというふうには私はとったものですから。そういう意味じゃなくて、観光という意味ですか。それは先ほどの入込客数にありました、もうほとんど、あれ、公の施設なんですけれども、そういったところでの人の動きというのはございますので、その中に、どれがいいかというのはありますけれども、それは手法を考えなくてははいけません、あの施設が中心になるかというふうには思います。

ビジネスの方については、一番いいのはやっぱりホテルかなという気はするんですけれども、それはそれでまたホテルの方にもご協力をいただくというお話になってまいりますので、その辺のところはご相談をさせていただくということになるかと思えます。

## ○ 樋口博己委員

今ホテルという話が出ましたけど、最近、全部が全部わかりませんが、ホテルなんか泊まると、まずはそのホテルのPR動画を見たりしますが、そこは四日市のPR映像が、長くなくても、たとえ少しでも入れていただくとか、そんなこともあるでしょうし、四日市の施設のインフォメーションなりが入ったところで必ず、例えば四日市公害と環境未来館なんかでも、1階ロビーに今あそこありますか、大型モニターか何か。何かそういうところでも大型モニターを設置するとか、今、柱でもやっていますよね。駅でやっていますけど、何かそういう観光施設なんかも、そういうプロモーションビデオを流すとか、そんな話でもいいと思いますし、一つ具体的に言うと、夜景クルーズなんかでも、あそこの待合室、時間がありますからそこでも流してもらおうとかね。何かいろんなことをやっぱり考えていかなあかんと思うんですよね、具体的に。

森課長もうなずいてみえたと思うんですけど、要するに四日市市民が誇りを持って言ったって持ちませんから、人から、よそから言われて、そうなん、そんなところあったんって言われるとうれしくなって誇りを持てるという話、うなずいてみえますよね。そうすると、やっぱり市外の方にどうPRするかだと思いますので、市外の方って名古屋駅にそんなばって流しても、そんなあんまり、効果ないとは言いませんけど、薄いと思います。何らかの形で、事情で四日市にみえた方にPRしていく、印象づけていくというのが非常に効果的だと思いますので、それをそれぞれいろんなところで、予算もかかるかわかりませんが、よそへ行ってどんどんPRするよりはそっちのほうが効果的だと思います。強

制的か自分の気持ちかは別として、四日市を訪れている方は方々にみえますから、その方に少しでもいい印象を持って帰っていただく。このほうが具体的にはプラスになるのかな、時間はかかると思いますけど。ちょっとそういったことはしっかり考えていただきたいなと思いますけれども、感想なりなんなり。

○ 渡辺シティプロモーション部長

ありがとうございました。

平成23年に観光元年と時の市長がうたって8年足らずということで、そのうちの2年がシティプロモーション部というお話でございます。なかなか私ども至らない点は多々あるかと思えます。ただいまいただいたお話もその一つかなというふうに思いながら拝聴しておりました。そのほかにもいろんな方法があるのかもわかりません。そういった部分も一つ一つ面倒くさがらずにいろいろ検討してまいりたいというふうに思います。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

○ 樋口博己委員

ぜひともいろんなチャンネルを使って、やっぱり確実性のあるPR行動を行っていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

○ 萩須智之委員長

ちょっと時間が1時間15分ほど過ぎてはおるんですが、まだご質問等おありですね。

○ 竹野兼主委員

いや、質問じゃなくて、感想だけでも、少し短いけど。

○ 萩須智之委員長

じゃ、そこで1回休憩挟ませていただきましょうか。先に休憩しましょうか。じゃ、あの時計でどうでしょうか。

(発言する者あり)

○ 荻須智之委員長

午後3時にしましょうか。じゃ、午後3時再開ということで。

14:47 休憩

---

15:00 再開

○ 荻須智之委員長

インターネット中継を再開いたします。

引き続きということで、竹野委員。

○ 竹野兼主委員

質問というよりはちょっと意見、感想になるんですけど。

愛着があるというのは僕はええと思うんですけど、誇りは持てないというところが少しわからなくて、誇りを持つ必要があるのかどうかという。誇りを持つためにはって先ほど樋口委員が言われておったみたいに、あんたのところの四日市ってこういうところ、ええところあるんやでって言われたほうが、そういうのがあるのかって、知らない市民の人たちが多過ぎるんじゃないかなと思う。そういうのをしっかりと全般に、市民全体に四日市ってこういうまちなんだって改めてきちっと話をしてもらうのはええんじゃないかなというふうに話を聞いていて思ったところです。

特に、この前、議会報告会、シティ・ミーティングのところで、僕らはB班におったんですけど、四日市大学の学生さんが多くて、海外から来ている学生さんもいて、報告書にもあるんですけど、海外から来て、福岡から、久留米やったかな、こっち戻ってこようとしたとき、あんな公害のまちに行って大丈夫なんって周りの人が心配したという話やけど、住んでみたらそうでもないというか、全然そんな言われておったようなものではなかったというふうに聞いたり、あと、兵庫県の地区から来ていて、泊まっているところというのは多分寄宿舍というか、下宿か、そういうところで、四日市大学なので、山のほう、下野地区の部分のところでは、夜になるとカブトムシみたいのが飛んでくるような、非常に楽

しいやんみたいな話をされておったという。

だから、地域と、それから今言う、ここに書いてある四日市の、例えば伝統や何とかというの、四日市のまちなかの話なのかな。これ、四日市のもともとは中心を回って、周りは合併してできたところなので、各地区のところではそれぞれに、それぞれの持っているものがある、そうしたら、それを共有できるように。さっき言ったみたいに愛着があるというのは、地域に昔からある四日市じゃない、県地区や河原田にしても、もともとは三重郡やったところが昭和の大合併で昭和30年に合併した、そういうところのものをもう一回しっかりと把握して、シティプロモーションという形で進めていかなあかんのと違うんかなというふうには思いました。

特に、あと、それから最初に話されておったみたいな中で、各原課がよりよいものを、豊田政典委員のほうも、何かあんまりわかりにくいんやわみたいのを話されておったけど、シティプロモーション部が、例えばこれを原課の中でいいと思うものは、もうみんなで原課としては一生懸命のところの課にとってベストのものを提案しようとしておるわけやけど、その中で優先順位をつけて、シティプロモーションとして、ここは発信していくんやというのをチェックして詰めていくぐらいの話のほうの方がわかりやすいんじゃないかなというふうに改めて思ったところです。

あと、評価したいなと思っているのは、近鉄四日市駅北のところで、今月はこういうイベントがありますみたいなのがずっとフィルムで動いているところとかってあるけど、ちょっと前までは、映画館でフィルムつくってやられておったけど、今映画館行ってもやっていないよね。お金がかかるでか知らんけど、やっておる、まだ、今も。やっておるのか。そうすると、途中というか、そこのところだけ見逃しておるんやな。だから、そういうのは継続しているんかなってちょっと確認だけしたかった。継続はしているということであれば、それはしっかりと継続していかなあかんと思うし、第一弾をつくったんやったら、同じのをずっと見ておったら、また同じなんやなって、見る人が変わっていく部分のところもあるので、そうやっていかれたらどうかなというふうに思いました。

あと、例えばこのところにある大四日市まつりはもう変えようがないかもしれへんけど、その一つの方法としては、例えば、夏の花火って、考えやんでもええんと違うかなと。ほかの場所によっては、夏の花火やと、例えば自分らがよく聞くのは、桑名の花火やいろんな花火のところと比べたら、四日市の花火って大したことないねという状況であれば、例えば視点を変えて、冬の花火もやっておるところもあるけど、じゃ、秋の花火をやって



おるところってないし、春の花火をやっているわけでもないしみたいな、そういう少し常識のところから離れて物を見るというのも、シティプロモーション部という部分ができたのであれば、そういう部分のところの提案もやってみてもおもしろいんじゃないかなみたいなことを思って聞いていましたけど、何かありますか。

## ○ 渡辺シティプロモーション部長

ありがとうございました。

竹野委員からは、多岐にわたってお話しいただきましたのでそれぞれにお答えできるかどうかわかりませんが、最後にお話しいただきました花火大会ですけれども、以前、産業生活常任委員会のほうでも、そういったご意見というのはいただいたような記憶がございます。

実際、昨年につきましては天候不順が続きまして、本市においては予定どおり行われましたが、他市におきましては夏の予定が秋になったと、近くの桑名市さんなんかもしか11月ごろだったと思うんですが、そういったことがございました。

たまたまなのかわかりませんが、そのときは非常に寒い日で、なかなかゆっくりと楽しむのは難しかったというふうなものもございました。ただ、それは日程の関係ですとか、いろいろ寒さ対策をしながらとか、寒いのを前提にという部分があるかと思います。

私ども、本当は場所についての検討というのをずっと話しておるんですが、なかなかほかの場所が見つからないという現実があって、そうすると、打ち上げに制限がかかると、先ほどご指摘があったような四日市の花火の現状がなかなか評価いただけない、そういうジレンマになっている部分がございます。

ですから、今ご指摘のあった時期の問題、例えば場所の問題、いろいろ交通の便とか総合的にございますので、すぐには正直答えは出ませんが、そういった視線で物事を考える、そういった部分については、私どもは若い職員も正直どうございますので、絶えずそういう形では、委員ご指摘のような形で、いろんな事業についていろんな観点から考える、これについては進めていかななくてはいけないというふうに考えております。

最初のほうにお話ございました四日市の成り立ち、各地域が合併によってという部分がございます。私自身も子供からずっと四日市で育って、いわゆる四日市に行くみたいなお話もあります。ですから、それぞれの地域の中での誇りというのはありますし、自分が大人になるにつれて、だんだんそれは市域が広がってくるという部分がございます。

その地域という部分が、地域のコミュニティーという部分でもいい面もあれば、全体から見たときの地域のつながりという難しい面もあると、そういういろんな面があろうかと思いますが、私どもとしては、ここの地域だから、ここの地域だからということではなくて、やはり、オール四日市という観点で物事を見るべきであるということで、例えば伊勢茶であれば水沢ということになりますけれども、これは四日市としての貴重な産業であると、そういうふうな感覚を持ってございますので、それは今後とも、四日市市内であればどこの地域であっても同じような四日市の誇るもの、地域資源という観点で取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

ちょっと全てお答えできなくて申しわけございませんが、以上でございます。

#### ○ 竹野兼主委員

ありがとうございました。

さっき部長が言われた、四日市に行く。自分らが子供のとき、やっぱり四日市に行くというのが、ステータスという言葉。だからいまでもって中心市街地活性化の事業というものはずっとあるんやろうと思いますけど、そういう意味合いの部分も含めて、どこに力点を置きながらという、その問題を多分シティプロモーション部が、さっき話した優先順位、本当に誇りを持とうとする部分のところの、誇りを持てるという部分のところはどれなんだというのをしっかりと示してもらうことが、シティプロモーションにとっては重要なのではないかなというふうに思いました。

あと、花火については、契約の部分もあったりするのでなかなか難しいというのは、今話をされている中では細かいというか、実際にやっていかんならん部分のところについては、そういう問題をクリアせなあかんというのはわかっているところなんですけど、少し違った意味合いで視点を変えろというのは、シティプロモーションでないとできやんのではないかなと思うので、そこのところはぜひ頑張ってもらいたいなというふうに思って、終わります。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

## ○ 森川 慎委員

シティプロモーション部として、人口動態というのは分析されておるんですかね、原因であるとか、何かこういう要因で人が動いているんだとか、その辺というのはされておるんやろうか。

## ○ 渡辺シティプロモーション部長

私どもの部では正直ございませんが、四日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略、いわゆる地方創生の戦略を策定した際に、四日市の人口ビジョンというのをつくってございます。これは四日市の一つの報告書でございますので、それをまずベースにしているというのはございます。

このときに、全国、国の人口の今後の動向、それから本市の今後の人口の推移の予想というのがございまして、それを少しでも右肩下がりにならないようなという対策がまち・ひと・しごと創生総合戦略の中でうたわれているという認識がございます。今現在、新総合計画の策定に当たりまして、人口の動態というのを政策推進部のほうで、今統計的に当たっているというのはございます。

ただ、ご指摘のシティプロモーション部の中で、その細かい人口の動態の原因とか、その辺の分析をやっているかというのと、そこまでは今現在はやってございません。

## ○ 森川 慎委員

政策推進部なりとその辺のデータを共有してとかということとはしていかないんですか。条例の中で交流人口をふやすとか、定住人口をふやすということを目的としてうたっておる中で、今現状、例えば平成30年度やと、10代の方たちといわゆる子育て世代、35歳から44歳までの人たちが転出超過になっているという現状があって、こういうところを分析せんとどういう手を打ってええかってそもそもわからんのと違うかなという。それ、シティプロモーション部の仕事じゃないって言われたらそうなんかもしれないんですけど、その辺がちゃんとわかっていないと、幾ら都市イメージを向上させても出ていく人はとまらないんじゃないかなと思いますし、20代の方で入ってきている人も、ぼちぼち出ていっているような人もいるというようなことも聞く中で、現状がやっぱりちゃんとわかっていないと、なかなかアピールもできへんのと違うかなと思うんですけど。

今は現状していないというところのお答えでしたけど、何かもうちょっと対策を打つべ

きではないかと思うんですが、どうですか。

#### ○ 渡辺シティプロモーション部長

人口の動態でございますが、今委員がおっしゃられたように、若い世代の方が子供と一緒に転出される傾向が多うございます。これにつきましては、昨年の市長のタウンミーティングにもそういう傾向を出しながら、市民の方にご説明をさせていただいているというところがございます。

じゃ、それでどうするのかというお話でございます。確かに、例えば菰野とか、三重郡に転居されるという方が多いというお話も伺っております。これはもう土地の問題だけなのかということもございますが、四日市に職を求められて、交通の便がいい中で、四日市の周辺のところでは家を建てられるというふうなところまでの、私ども市全体として、そういうふうな傾向が最近多いという分析をしております。

その中で、じゃ、それぞれの立場でどういった政策をするのか、子供は、小さい子供がお見えになりますので、こども未来部でありますとか、教育委員会でありますとか、そういったところの子供対策の施策、そういった部分の充実という部分が当然あるでしょうし、学校の施設の充実という部分もあろうかと思えます。

それは全てが全て、その分析に基づいて事が運んでいるかということにはございますけれども、そういった、今まさに森川委員がおっしゃられた分析の方向性といいますか、それに対してどういう施策を打っていくかというのは重要であって、それについてはそういう形で進めているというふうな認識ではおります。

#### ○ 森川 慎委員

最後ようわからんだんですけど、そういう方向で進めていくというのはどういう意味ですか。

#### ○ 渡辺シティプロモーション部長

そういった世代の方が離れていっているという現実があると。ですから、それをとめるためにはどうするか、四日市の都市としての魅力を上げるということが一番だと、その世代に対する行政サービスの充実を図るという考え方も一つございますので、そういった考え方に基づいて行っていると。例えば子ども医療費の窓口の無料化のお話も、三重県下で

は何も四日市だけじゃございませんけれども、少しでもできることをやっていこうということで、そういう施策をやっているという認識でございます。

○ 森川 慎委員

今は子育ての世代に特化して私は質問しましたが、質問したのは、今現状のいろんな、どこがふえたり減ったりというのがあって、数字が出ている中で、そこを分析して、その原因、結果で何か対策を打っていく必要があるんじゃないかという投げかけをさせてもらった中で、別に子供に特化した質問をしたつもりはないんですけど、その辺はどうなんかなと思って。どうなんですか。数字に基づいた施策を打っていく必要があるでしょうということ言ったんですけど、あんまりその方向性なり、今後どうしていこうと考えておるとか、別にあんまり考えはないのか知りませんが、どうですかね。

○ 渡辺シティプロモーション部長

委員からご指摘を頂戴しましたのは、子育て世代の方が四日市から離れていっている…。

○ 森川 慎委員

違う、違う。ごめんなさい。委員長、いいですか。

いや、それは現実としてありますけど、いろんなところで20代の方がふえているところもあるし、それぞれ数字が出ておるわけですね。人口の動態が、ここの世代はふえておる、減っているというのがあって。そういう数字がある中で、それはしっかり分析して、シティプロモーションにつなげていくべきじゃないですかということ私は言っておるので、どうされていくんですかって聞いただけなんですけど。別に子供に特化した話ではなくて、数字やデータを使っていけば、それに対してどうやって四日市として対応していくか。シティプロモーション部の仕事じゃないというんだったら、それはそれで一つの答えだと思うんですけど。

○ 渡辺シティプロモーション部長

おっしゃられたように、その数字の対策全てを私どもでやるというのは、これはもう確かに無理だと思います。その中で、何度も子育て世代のお話が出ますが、それが顕著な答

えとして出ているという認識を持ってございます。

ですから、その部分につきましては、その分析に基づいて施策を充実させていくと。これは何もシティプロモーション部というよりは、市全体としてその対策をどうするかというお話でございますので、この場合はこども未来部が中心になってやっているということございまして、特にシティプロモーション部が何かそれに対してやっているかという、広報の中でそういうお知らせをするというのはございますけれども、そういった部分だけでございまして、この件につきましては、そのほかに特に何かやっているというのはございません。

それぞれの世代の中でふえたり減ったりというのはございますけれども、それを少し40代、50代、60代でそれぞれどういう傾向があってというところまでの分析には至っていないというのが現実でございます。

#### ○ 森川 慎委員

それはわかっているんですけど。現実にはわかっているんです。シティプロモーション部でできやんのかな。ちょっと何か、せっかくこういう分析とかアンケートをとってもらって。

#### ○ 荻須智之委員長

じゃ、森川委員、ご意見としてどうぞ続けてください。

#### ○ 森川 慎委員

分析や数字もある程度持ってもらっておって、これを全然生かし切れていないのかなというのを一つ思っておって。それはもちろんシティプロモーション部だけでできる仕事ではないでしょうけど、シティプロモーションのこの条例に従って施策を進めていくというのであれば、それこそ人口というのは一番の目的に挙げられておるわけで。あんまり言うのも酷やけど、何か全庁的な働きかけとか、そういう土台のプラットフォームをつくっていくとか、議論のプラットフォームをつくっていくとか、何かそういうこともできるんじゃないかなと思っている中で、今いろんな広告ばかりに力を入れておるのはどうかなと思った次第ですので、意見です。終わります。

## ○ 萩須智之委員長

子育て世代の転出というのは非常に大きい問題やということですが、これの理由等はまだ調べる手だてがないということでもよろしいのでしょうか。不動産屋さんに聞いてみるとか、そういうことでも調査はできないことはないと思うんですが。恐らく土地が高いとか、戸建てが欲しいから市外にということもあろうかと思うんですが、その辺は調べるすべはないですか。どうでしょう。

## ○ 渡辺シティプロモーション部長

森川委員がご指摘いただいたように、今委員長お話しの傾向はございます。この傾向は数字で出ているものでございまして、委員長のご指摘の部分につきましては、その内容といますか、その事由についての調査というご指摘かと思えます。この点につきましては、先ほど休憩前に、樋口委員のほうからも観光客、例えばビジネス客、そういった方の動向の意識調査というのがございましたけれども、そういった部分とよく似ている部分があるかと思えます。

ただ、その情報をつかむタイミングというのが、それぞれ媒体によって違うのかわかりませんが、そういった部分については、ちょっと今すぐどれを、どういう形で、どの人たちへアプローチをすることがその答えに結びつくのかというのはすぐちょっと出ませんけれども、それはやり方について、私どもシティプロモーション部でできることをちょっと検討させていただきたいということでもございます。

## ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

森川委員、そんな感じでどうでしょう。

## ○ 森川 慎委員

今の子育ての世代の出ていく話も、この7ページに出ておる居住地としてのブランド力が低いというところで住みにくいという方がいっぱいいて、39歳以下の女性の割合が最も少ないですね。四日市に住みやすいと思っておる人が一番少ない割合なのは39歳以下で、これ、完全にリンクしておるわけで。

人って別に住みやすかったら出ていかないと思うんですよね、根本的に。税金が安いので

かもしれやんし、土地が安いのかもしれやんし、子供が育てやすいのかもしれませんが、住みやすかったら人って勝手に入ってくると思うし、やっぱりシティプロモーションってそういう方向であるべきかなと個人的には思っていますが、あんまりここで言ってもあれなんで。

特に明石市なんかは、子供を中心とするって本当にそういう施策をしておって、どんどん人口がふえていっておるとい、そういうまちはほかの地域にもあるわけで、人口をふやすことを目的にシティプロモーションをしていくんじゃなくて、今住んでいる人たちにとってどうやって暮らしやすいまちにしていくかというところでしか、あるいは本当の人口増という流れにはなっていないのかなと個人的には思っていますので。意見です。終わります。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

引き続き、ほかにいかがでしょうか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

よろしいですか。

そうしますと、質疑はこの程度にとどめさせていただきます。

次に、議員間討議を行いたいと思います。討議に先立ちまして、テーマを設定させていただきたいと思います。先ほど来、議論になっております内容としては、人口動向の調査というのも。最終目的は人口増ですわね。

(発言する者あり)

○ 萩須智之委員長

竹野委員、どうぞ。

○ 竹野兼主委員



さっき話されておったみたいに、市全体で人口増を進めていこうとする。森川委員の言われておったみたいに、例えば教育で、うちの自治体は教育を本当に一生懸命やっている、そういうサポートの体制があるから、わざわざそこへ移住してきたというような、現実にそういう施策があるわけですか。

だから、その施策があるよというのを発信するのがシティプロモーションで、それはもうさっきも言ったけど、施策の中で、四日市市としてこれがもう一番の売りで、この状況については全国でも、どこにも負けやんぐらいの話ができれば、それをシティプロモーションとして提案しながら、人口が流入するような形は進められるのと違うのというふうに思って聞くやんね。

だから、森川委員が言っているのは、ここだけで言ってもあかんのやろうかと、本来、四日市市全体の事業が、ほかのところよりもより一層すばらしいものであるというのを用意できたものを持って、シティプロモーションが、という形でしょう。シティプロモーション部だけでものはできやんですよねというふうに言われているので、それはそうやんねと思って聞いておるわけやんな。

## ○ 豊田政典委員

竹野委員の言われるとおりでね。四日市市の自己分析でもありますけど、いろんな分野を円にしてみるとほぼ平均点なんです。そうだと思うんです、多分。割合高い点数の円だと、直径が長い。それはそれで当然、地方自治体のやるべき最大の責務であり、役割なんですけれども、市民のサービスを充実させる、それはやるんですよ、きっと。やれている部分も多い。

そこから先、人口獲得競争というふうに言われるし、人口増を目指そうという自治体が多いけど、その際に、どこの分野を、どういう分野を武器にして、一番の売りにするか、これがないという意見も少なくない。ところが、森市長は子育て、教育と言っているのであれば、このまま市長が変わらんとやっていくのであれば、ここを強化して、パッケージにして、売り物にせなあかんわけや。それを売り込むのは彼らですけど、まだ残念ながら売り物ができていないというのは僕の認識であって。

それで、それは同じなんですけど、シティプロモーション部、きょう来てもらっていて、彼らにこれ以上聞くことはないんですけども、委員長、長丁場でやるのであれば、ぜひ取り上げてほしいのは、執行部というより、私自身も都市の力は人口にありって本会議で

言ったのもあるんですけども、本当にそうなんだろうか、1回確認したいんですよ。確認してもっと腹におさめたい。委員長お得意の理論的な、人口が多いと都市力——都市力も漠然としていますけど——にどんな影響があって、その都市にとってええことなんやというのを腹におさめたいもんで、それは学術的な理論なのかもしれないし、国の発表なのかもしれませんけど、果たして人口ふやさなあかんのかというのをまず腹におさめたい。多分何となくそうやなと思うんやけど、そこをまず乗り越えた上で、そうしたら何をすべきかというのを次に考えなあかんねんけど。

この前、会派で高知県へ行って、四万十町というところに行った。人口をふやすんだったって、町長が出てきて、町長さんが説明してくれるんですけども、Uターン人口がうちはめっちゃふえてきたんだ、そのために住宅を誘致しているだという。詳しいことは聞いていないんですけども、そういうテーマじゃなかったんでね。てなことで、Uターン、四日市市出身者というのが一つのターゲットかなと思ったりね。

そんなことも後々、この委員会の所管事務調査で考えてみたいなと思いつつ、まずはさっき言ったように、人口の多い、少ないが行政サービスにどういう影響を及ぼすのか。もっと漠然と言え、市民の幸福にどうつながるのか、つながらないのかとか。それから、政府の推計に今上がっているまち・ひと・しごと創生総合戦略で2040年、四日市市は26万人になるよというやつから、いや、28万人に何とか抑えるよという計画を出したんですよ。26万人ってどうやって出したのかよくわからないんですよ。それは簡単にわかると思うので、どういう計算でこうなっているのかということも教えてほしいし。

ほかにもいろいろありますが、もう一つ言えば、交流人口をふやそうって声かけますよね、いろんなイベントやって。でも、究極、その先の目標は定住人口と言いかたをしますやんか。どうやって結びつくのかなというのが何となくわかるような、わからんようなことなので、そこも腹に落ちるような資料というか、考え方というか、何かデータをいただいで一緒に考えてみたいな。

三つほど言いましたけど、ぜひ次回、委員長、そういった関連データを用意していただいでいいですか。

## ○ 萩須智之委員長

はい。それが議員間討議の後に、次回の進め方についてお話ししようと思ったんですが、もう既にそのご意見は承ります。

その前に、今回の議員間討議でやるべきことはどうしようということなんですが、テーマなんですが、この人口問題というのは大きいですね。

#### ○ 豊田政典委員

いろいろ質疑、答弁の中でいろんな話が出てきたので、この先どうこの委員会の所管事務調査を進めるかというのをいろんな側面から出し合っていて、整理して決めていけばいいんじゃないかな。そんな時間にすればどうですかね。どんなことでもいいと思うんですけど、人口、シティプロモーションにかかわるところで思っていることを出し合って、後で正副で整理してもらって、今後の進め方をつくっていくこととしてはどうですか。

#### ○ 竹野兼主委員

今豊田さん言われるみたいに、人口ふやせ、ふやせといっても、高齢者がふえたらマイナスの要因にはなるで、ここのところでいう7ページのところで、暮らしやすそうと思う近隣のまちの部分のところで、こういうパーセンテージが出たりしているんですけど、最も重要な年代層のデータがこれから必要になってくるんじゃないのという意味合いで、これから進む中で、そうじゃなくてよく言われる生産人口をふやすのが必要やって市長はやっぱり言われるわけですよ。

そうすると、生産人口という部分のところの状況が、これからこういうふうな状況に、今現状どうなっているのか僕らもわからんし、それを伸ばそうとするためにどんな方策が必要なのかという意味合いのところでは、少し何かデータがあれば話ができるのではないかなというふうに聞いていて思いました。もし、そういうものができるといふふうにして聞かさせてもらいました。

#### ○ 萩須智之委員長

これも次回以降での資料としてということですね。

そうなりますと、シティプロモーションで最終的にやり遂げたいことというのは、交流人口から定住人口をふやしていくということですが、今竹野委員の言われた高齢者がふえても困るといふのは、高齢者がふえることということだけじゃなくて、高齢者の人口だけが突出してふえては困るといふことですね。

○ 竹野兼主委員

全体的に定住人口、交流人口、年代別の部分というもの、もしわかるのであれば、そういうのが必要なんじゃないかなと、根本にね。それができるかどうかというのはちょっとわからないですけど、そういう方向性だけでも少し教えてもらえれば、披露できる部分はできるんじゃないかなということです。

(発言する者あり)

○ 豊田政典委員

ほかの話になっちゃうかわからんですけど、人口の話を見ると、シティプロモーション部の所管を超えているというなら、政策推進部に来てもらわなあかんわけですよ。両方いたほうがいいんですけど。

それと、あとは、資料請求ばかりになってしまうかもわからんですけど、ターゲットね。たしか名古屋圏の都市だったということを言われますから、ほかの近隣の県内北勢とか、それから近隣のまちはどうなっているのか、ふえているか、減っているか。理由ってわかりませんが、推測される理由とかいうのを、やっぱり。これ、嫌らしいことを言います、今から。委員長嫌いやと思いますけれども、奪い取らなあかんと、僕はある意味思っているんで、敵を知らないといけないんですよ。敵の強いところ、弱いところを。

だから、近隣、北勢ぐらいの近隣市町と、それから名古屋圏の都市の人口の推移、それから推測される理由、原因、そんなところかな。そういうのも必要なんじゃないかと。

○ 荻須智之委員長

わかりました。そうしたら、議員間討議に関して、人口増につなげる対象となる市町等について、今豊田委員から、奪い取る対象というお話が出たんで。ちょっと待ってくださいね。それに絡んだあたりをどうかなと思うんです。

○ 豊田政典委員

資料。

○ 荻須智之委員長

資料請求なんですか。

○ 豊田政典委員

よしあしは別にして。

○ 森川 慎委員

これはもう本当に議員間討議ですけど、私は人口、どっかから分捕ってくるという考え方は間違っておると思っておって、やっぱり協力して、お互いに補い合って、それぞれにパイをふやしていくというのが本来あるべき姿かなと思っておって。日本全体でどんどんどんどん人口が減っていく中で奪い合っておったって、同じ国の中、同じ地域の中に住んでいるんですから、みんないつかまとめて没落していくんじゃないかというのが個人的な感想で、例えば菰野には自然がたくさんあって、四日市には働く場所がいっぱいあって、そういうすみ分けなりでお互いに支え合いながら、人口は大きな地域なり範囲でお互いに増加していくみたいな、そういうのが本来、今の時代に求められるべき方向性かなと私は思いますし、今、都市間競争とか、自治体間競争って市は盛んに言いますが、この考え方自体、私はあんまり気に入らんところがあって、今のこの時代に即していないんじゃないかなって、一昔前の考え方なんじゃないかなと。まちの中に何でもある必要はないと個人的には思っています。

○ 萩須智之委員長

そういうあたりを皆さんご意見出していただくと、自然と議員間討議になっておるんですが。

○ 樋口博己委員

私は森川さんと同じ視点なんですわ。四日市でフルセットで何でもあって、四日市にみんなが住んでもらうというよりは、緩やかな広域的な行政や広がりのある中で、仕事は四日市に来ていただくと、寝るのは菰野でもいいと、そこで経済活動が、交流人口というものがありますけど、経済がぐるぐる回っていくと。これは四日市というよりも三泗地区、——教育委員会がよくやる三泗地区——これは北勢地区とか、何かそんなようなエリアの中で、四日市は言うても北勢の中で一番大きいまちで、リーダーシップをとるべきまちな

ので、少々やっぱり他市町にも投資せなあかんこともあると思っています、僕は。それぐらいの度量で広域的な北勢圏の中で四日市は中核になって、名古屋と競争してもあかんで、北勢圏域の中で魅力あるまちになっていく中で、四日市の人口がふえるということできくと大きく経済が回ってくる、そんなようなイメージがいいのかなと思っています。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

#### ○ 笹岡秀太郎委員

まさしくそれは基本理念の第3条第4号にうたってある、条例の重要なエッセンスやと思うので、そこらは、こちらが腹におさめて動いて施策展開していかなあかんところであって、議員間討議の前の話やわな。ただ、どこにそれを位置づけておるかというのがやっぱりいろんな視点があるから、それはやっぱりその部分で議員間討議していかなあかんと思う。第3条の第4号を見てもらうと、国県及び地方公共団体の広域的な連携を推進すること。樋口さんの言われたのは、なおかつ四日市がリーダー的立場をもって進めると、この基本理念に入れておくともっとよかったかもしれない。四日市の果たす役割をね。

以上です。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

私もおっしゃるとおりだと思います。個人的には四日市市の中で出生率をより高めるのが一番大事かなと思っていますので。特に田舎から持ってくるというのは、森川さんも多分それを意図されておる、名古屋市から取ってくるのはええと思うんですけど、それは非常に難しい。けれども、ここに根本的な問題がありまして、名張市が今経験しているように、ベッドタウンとして一旦急に人口をふやしたというまちは、その人たちが団塊となって高齢化して大変な負担になっているということもありますので、ただ単純に人口をふやしたらいいかというのは、そう軽々に判断できる問題ではないと。

その中で、今笹岡委員が言われましたように、これ、大きい条項だと思います。国、県、他の地方公共団体の広域的な連携。中核市を見据えると、これ、非常に大事なことになると思いますので、この辺を念頭にご意見を出し合っただけであれば。もう大分出てしまい

ましたが、どうかと思いますが、いかがでしょうか。

○ 豊田政典委員

全然反対でもなくて、資料請求しただけなんですけど。おっしゃるとおり、広域連携、広域行政というのは、これからもっと必要性、有効性が高まってくると思うんですよ。

だから、国政の中で何か会議をやっているみたいですけど、あんまり成果が上がっていないように思うし、総合計画も四日市市だけで立てる部分と、もっと広域で考える部分もあるのかなと思ったり、いろんなところで、せめて北勢総合計画みたいのがあってもいいかもしれないし、総合力で、地域全体で魅力を高め合うというのはやっぱり必要な時代が来るんじゃないかと、そんなことは思います。

○ 荻須智之委員長

当市だけでなしに北勢地区とか、もうちょっと広い地域間連携があつてということでもよろしいですかね。

(発言する者あり)

○ 荻須智之委員長

よろしいですか。

(発言する者あり)

○ 荻須智之委員長

というご意見に対していかがでしょうか。

副委員長、何か言いたそうやけど。

○ 豊田祥司副委員長

ありがとうございます。

今の話聞いていて、やっぱり人口動態というものの影響力とか、その辺の勉強というのはまず必要なのかなと。今言っていたように、出生率を上げていくのが一番いいんでしょ

うけれども、よそから来てもらった場合の影響力であったり、さっき豊田政典委員が言っていたように、その辺の勉強というのとは一遍してもいいのかなという思いはちょっと思いました。

人口多いとどうなんやというところも含めて、四日市市の適正人口というものもあるでしょうし、産業とか、その辺の仕組みとのかかわり合いと、さっき出てきた名古屋圏内のという部分でどんだけ四日市がそういう部分に入ってくるのかとか、その辺の勉強会とかというのが一遍あってもいいのかなって少し思いました。

### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

今後の所管事務調査の中にそういうのを、機会を設けていくということで、資料等もそろえていただければありがたいと思います。

いかがでしょうか、ほかには。

### ○ 豊田政典委員

あっちこちしますけど、人生80年か100年か知りませんがの中で、転居のタイミングってそんなにないと思うんですよ。したくてもできへんなり、することもあってね。だから、竹野さんもそんなようなこと言いましたけれども、もう少し世代をターゲティングして戦略を打てればいいのかなど思ったり、最初の事実把握が必要ですよね。根拠、なぜ出ていくのか、出ていかないのか。

例えばもっと先で、後でもいいんですけど、高校生は進学が一番大問題で、転出するケースが多いですよ。高校生に少し意見を聞いてみるとか、あるいは東京事務所が、今はどうか知りませんが、時々、四日市出身者集めて何か遊んでいますやんか。遊んでいるのか、何しているのか知りませんが。そういうのに我々行って、一緒に酒飲むとかということも。その人によって全然違うでしょうけど、四日市は今思っただうですかとか、将来どうすんのやとかということもおもしろいかもかもしれないな思ったり。

それから、いろんなこと言うので適当にやっておいてくださいね。市役所の職員って割と市外の人が多いと聞くんですけど、その人らもそれぞれの事情があるんですけど、一番手っ取り早いのが、市外居住者を集めて、何で四日市に住まないのって聞いてみるとかね。住めない事情もあるんでしょうけど、何で四日市に住まへんのかという意見交換会をしてみた



り。これ、手軽でいいんじゃないかと思ったりもしました。

以上。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

これは簡単にアンケートできると思いますけど。その中で、一口に人口増といっても、さまざまな方法があるということは浮き彫りになってきたんですが、その辺をちょうど理事者の方にも聞いていただいておりますので、今後反映していただけるといいかなというふうには思います。

当然、これぐらいのことは踏まえた上で施策は打っていただいていると思いますけれども、余り自治体間競争とか、今日そういう意識をあおるというのでは、これ、解決しやんなというような感じは受けますね。

そこら辺いかがでしょうか。皆様のご意見は、ちょっと大勢的にあげつない自治体間競争ではないと思うんです。

#### ○ 森川 慎委員

今出ている中では、まずそもそも人口はふやすべきなんかどうかというところが一つ問題点としてあったかなと思います。それでふやすべきだという方向であれば、どうやってしてふやしていこうかというお話で、それは四日市の中で出生率を上げていくというのも一つの方法でありますし、近隣の自治体の中で経済を循環させて、人を回して行って、好循環をつくって、みんなで向上していきましょう、人口ふやしていきましょう、そういう地域にしていきましょうというのも一つの方法やと思いますし、その辺の一連の提案が今いろいろあった中でどうしていこうかという議論を次の段階でしていけばいいのかなと今聞いていて思いましたので、人口ふえるとどういことがええんやとか、どういことが悪いんやとか、そういうところからなんかなという、次回の所管事務調査かなんかでその辺のよしあしのところかなと今聞いていて思いました。

#### ○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。

先ほど副委員長から、適正人口という重要な言葉が出ましたので、人口多けりゃ当然若

い人も多いので、将来、財政負担を担っていただける世代も多い。けれども、極端な例ですと、飛島村のように、人口の増加を抑制して中間の労働で流入してくる人口がすごく多いということで、財政健全度を上げているまちもあります。それはなかなか特殊な例ですので、その辺で引き続き、四日市市の人口というのはどうあるべきかというところ、根本的なところへ立ち返って、それにのっとって必要な世代とかを、ターゲティングって言われましたけど、狙いを定めて流入していただきやすいようにというのは大事なかなと思います。

もう既に四日市市は、16歳未満ですか、子供の医療費は後払いでただになっていますよね。他市町に先駆けてやっています。中学生の終わりまでは後払いで医療費はただなんです。これがちょっとPRが足りていないのかなというふうにも感じたりもしますので。ちょっと外れますけれども。

#### ○ 竹野兼主委員

今いろんな課題があって、所管事務調査、この委員会の部分のところという2年間というのあって、それを1年なら1年間このテーマの形で、出てきた問題に対していろいろ意見をしていくようなイメージでいいんですかね。ちょっとわからんもんで教えていただきたいなと思ったんですけど。

#### ○ 荻須智之委員長

長く2年間を通じてというその原案は、豊田政典委員に最初のもくろみはどうかということちょっとお伺いしてみたいんですけども、どういうふうにお考えでしょうか。

#### ○ 豊田政典委員

4常任委員会があって、それぞれ中長期でテーマを掘り下げていく方向でやり始めたところなんです。これを2年間やるのか、いや、1年だとか、それは調査を進める中でみんな判断すればいいんじゃないかと思いますけど。最長2年。

#### ○ 竹野兼主委員

今の話の中で言う資料もという話になると、資料を用意してもらわなあかんし、その資料の中で、今言う言葉では簡単という話になったけど、なかなか簡単でもないんじ

やないかなと思いましたし。

1年間同じテーマで話をしていくと、その時々の部分のところで、社会状況の部分で、少し意味合いが違った形で調査ができるんじゃないかなと思うので、本当に聞きたかったのは1年でなくって2年をどうするのであれば、そういうテーマがどンドンどンドン調査していくところでそれを積み上げて、結論に導くというのが重要なかなというふうに、意味合いではちょっと思ったもので、それを確認したかっただけなんですけど。

#### ○ 荻須智之委員長

竹野委員、ありがとうございました。

#### ○ 豊田政典委員

もう一つなんですけど、さっきから話聞いていても、シティプロモーション部は守備範囲も限られているし、制約があるし、予算もあんまりもらっていないので、かといって政策が、市長が人口増と言いながら、子育てするならと言いながら、目に見えたものはなかなか出てこないという。

それを超えて、超えてですよ、我々は自由に調査に行けるし、提言みたいなのを最終的にまとめられれば、これは市民の意見やもので、市民代表の意見なので、彼らにとってもいいことがあるかもしれないし、嫌なこともあるかもわからんと。

そういった感じですね。いろんな場面、いろんな1年、2年あるならいろいろ調査ができると思うし、いろんな意見交換ができるだろうし、いろんな要素で考えて、みんなで一番いい提言ができるのがいいのではないかとこのところで提案したんです。

#### ○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

そういう形でいけば、2年として固めてしまうものではないけれどもということですが、よろしいんでしょうかね。

皆さん、そういう方向づけでよろしいんですか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

ということで、いろいろキーワードも出していただいたことなんですけれども、議員間討議としてはこんな感じでもよろしかったでしょうかね。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

そこら辺できょうは議員間討議をおさめさせていただきます。

ということで、次回以降の進め方ですが、先ほど来、出ています資料請求等でまた資料をそろえていただいて——できる範囲内ですけどね——8月定例会以降に、改めてまた所管事務調査をさせていただくということでよろしいですかね。

(異議なし)

○ 竹野兼主委員

我々の腹に落ちる。人口理論、次のところはそこのところがあるのと違うかな。

○ 荻須智之委員長

適正人口という言葉は大きいと思いますね。ただ単にふえていきやええというもんじゃないと思いますので。実際、東京都が今もう膨張し過ぎて、今後の高齢者の福祉予算が大きくなるだろうから故郷へ帰れということを出していますので、勝手なもんですけどね。それは悪い例ですが、そこら辺をちょうど研究、勉強していくのにはいいテーマだと思いますので、ご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。

この内容を踏まえて正副で相談させていただき、改めて案を、次回以降、皆様にお示しさせていただきます。

(発言する者あり)

○ 萩須智之委員長

進め方と大きいテーマとしては、人口増についての。

(発言する者あり)

○ 萩須智之委員長

はっきり言いまして、その理由ですよね、はっきりした根拠といいますか、そこから根本的に掘り下げたほうがいいと思います。そうでないと、今まではただ何となく多けりゃいいという形で来ていると思うんですよね。その中で、どの世代が大事かということも見えてくると思いますので。当然若い世代が多いほうがいいんですけども、じゃ、転出していくという理由も、今後調査していただきますから見えてくる。市内に住宅環境がないのであれば、それをつくらないかん。けれども、菰野のほうがええのであれば行く。けれども、菰野はどんどん人口がふえるばっかで、その方が最後まで住まれると100歳の人をようけ抱えることになるということまでも考えていかなあかんと思いますけれども。

進め方としては、きょう出た資料をまた提示していただいて、それにのっって四日市独自の人口施策、増加策というのを決めていくという方向でよろしいですか。

○ 森川 慎委員

資料をお願いしたいんですけど、今の市民の人のいろんな経済の状況を知りたいんです。年収であるとか、世代別の収入とか、わかる範囲で。あんまりないかもしれやんけど、みんなどういいう経済状況で生活されておるのかなって、そういう分布を知りたいなと思うんですけど。

○ 萩須智之委員長

そうしますと、世代別所得、あと持ち家かどうか。

○ 森川 慎委員

そうですね。そういうなるべく具体的に今市民の人たちが、それぞれの年代でどんなふうな状況で暮らされているのか。当然その中には、正規、非正規とか、そういう働き方の問題も含まれるやろうし、貧困という問題が出てくるかもしれへんし、その辺の何か。

○ 竹野兼主委員

そんな資料って用意できるの。

○ 森川 慎委員

そうやであるかどうかかわからんのですけど、何か引っ張ってこれる数字があれば知りたいなと思います。そういう中で、住宅に困っておるのかとか、子供を産みたくても産めやん人が多いのかとか、そういう問題もわかってくるのかなと思うんですけど。どこまでその資料が、データが出るかどうかわかりませんが、可能でしたら。

○ 樋口博己委員

個人は出るやろうけど、世帯は難しいのと違う。

○ 森川 慎委員

そうやで、大体の傾向がわかれば。

○ 樋口博己委員

単身世帯なのか、夫婦がとか、子供がいるとか、それは扶養控除とか、そういうのでわかるのかな。そこまで分析できるかな。

○ 森川 慎委員

そういうのはわからんですけど、例えば厚生労働省にそういうデータがあるかもしれへんし、そういう国のデータというのもあり得ると思うんですけど。

国のデータとかもあると思うし、いろんな県のデータかもしれへんし、とにかく今暮らしている人らがどういう経済状況なんかという動向がわかると、いろいろ政策の打ちようというのものもあるのかなと。

○ 萩須智之委員長

現状把握につなげられる資料をとということね。

○ 森川 慎委員

生活保護を受けておる方がほかの市町に比べて多かったら、そこはやっぱり何らかの対応をしていかなあかんやろうし、というような傾向がわかると思うんですわ。

○ 荻須智之委員長

できる限りそろえていただくようお願いしようと思います。

○ 竹野兼主委員

そろえられるか検討してください。

○ 荻須智之委員長

検討させていただきます。

○ 豊田政典委員

きょう説明いただいた森課長のところのやつ、やっぱり我々も記憶に残っているので、口頭で言われましたけど、三つぐらい何か調査したんですよね。とりあえずちょっと書いて、整理して。

○ 森シティプロモーション部参事兼広報マーケティング課長

もとの調査。

○ 豊田政典委員

いつ、誰に、何人調査して、回答が何人だとか、それをまた入れておいてください。

○ 荻須智之委員長

資料としてということですね。お願いします。

○ 竹野兼主委員

次回まで。

○ 荻須智之委員長

次回まででよろしいですかね。

他によろしいでしょうか。

じゃ、そういう形で今お願いすべき、またそろえるべき資料というのは出てきましたので、次回までにできるだけそろえていただくということで、詳細はまた正副に一任していただいでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

それでは、本日の会議はこれまでとさせていただきます。理事者の方、お疲れさまでした。ありがとうございました。

16 : 02 閉議